
新月の夜のメール

ゆうじん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新月の夜のメール

【Nコード】

N1962B

【作者名】

ゆうじん

【あらすじ】

夜が怖いと思うことはありませんか？小さな子供のように、夜が怖いと不安になるませんか？

（前書き）

初投稿です。下手くそ素人のダメダメ小説ですが、そこらへんはご愛嬌で。気に入って貰えれば幸いです。

深夜、目が覚めた。

今夜は新月なんだろう。開けっ放しの窓の奥は深い穴が口を開けているようだ。

部屋の中を僅かに照らす、携帯の液晶画面。どうやらまた、使っている途中で寝てしまったらしい。枕元のコンセントから長く伸びる充電器のケーブルが、いつかこの首を絞めやしないかと不安になる。

携帯を閉じた。部屋は完全に光を失う。視界は黒一色で、自分の腕も見えやしない。夜に溶け込んでいるみたいだ。心臓の音がやけに大きく聞こえる。

怖い。

突如として胸を襲う不安感。

暗闇が怖い。

心臓の音が加速する。

怖い。

目を瞑る。視界が黒一色に染まる。目を開ける。視界が黒一色に染まる。

怖い。怖い。

何が怖いのかは分からない。いや、分かるかもしれない。どっちだっていい。考えが纏まらない。頭の中まで黒一色。焦燥感で体が熱くなる。窓から吹き込む風よりも遥かに熱く、体が火照る。なのになんだ？　心は恐怖で凍てつく。

怖い。

携帯が鳴った。

メール着信を知らせる電子音。ちよつと間抜けなメロディーだ。

急に可笑しくなった。吹き出してしまいそうだ。

まるで小さな子供みたいじゃないか。明かりが無いくらいでパニックになるなんて。自分が自分で可笑しくなって、しばらくメールを開くのも忘れていた。

メールを開く。登録外のアドレスからの着信だった。友人の誰かがアドレスを変えたのだらう。一瞬、思い浮かんだ心配を掻き消した。

本文は空白だった。

俄かに恐怖が蘇る。

手の中の携帯が震える。再び、メールの着信。同じアドレスからだ。

メールを開く。

今度は添付ファイルがある。開いた。

画面は黒一色だ。いたずらだろうか。いや、ちがう。画面の右端に光が浮かんだ。馴染みのある間抜けなメロディー。これは――

自分の部屋だ！

後ろを振り向いた。ゆっくりと、確かめるように。目を凝らすけれどあるのは闇だ。画面の中も闇だ。メールには続きがあった。今度は何か書かれている。

「こわい？」

部屋を飛び出した。一目散に駆けていく。両親が寝て居るであろう寝室へ。子供だと馬鹿にされようがどうだっていい。闇が私を見ている。

怖い。

だけども、そこにも闇はある。
今夜は新月なのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1962b/>

新月の夜のメール

2010年12月12日03時48分発行